

那須塩原市文化財 保存活用地域計画

概要版

令和4年12月
那須塩原市教育委員会

旧青木家那須別邸の外壁（蔦型のスレート）



基本理念

歴史をつなぎ 未来を拓き 新しいまちのストーリーをみんなで作ろう

基本理念に込められた思い

那須野が原の荒涼たる原野にあって、先人たちは、過酷な自然環境と闘いながら、今日の暮らしを支える緑豊かな那須野が原を作り上げました。その物語を伝える歴史文化資源が、今もわたしたちの周りに残されています。こうした歴史文化資源の保存と継承を通じて、先人の不屈の開拓精神を受け継ぐとともに、多様な主体により歴史文化資源を活用することによって、新しいまちづくりのストーリーを紡いでいきます。

歴史文化資源の保存・活用

◆方針

つなぐ

- 1 歴史文化資源の継続的な調査・研究
 - ・歴史文化資源の調査・研究の推進
 - ・調査・研究拠点の整備の推進
- 2 歴史文化資源の保存・活用・継承
 - ・指定等文化財の適切な保存・管理
 - ・周辺環境の整備の推進
 - ・所有者・管理者への支援
 - ・デジタルアーカイブ化の推進
 - ・防災・防犯対策の推進

拓く

- 3 歴史文化資源の価値の共有
 - ・タイムリーで分かりやすい情報発信の推進
 - ・歴史文化資源の展示・公開の充実
 - ・観光振興等と連携した活用の推進
- 4 多様な主体が関わる推進体制の構築
 - ・関係団体との協働の推進
 - ・郷土芸能の保存・継承の推進
 - ・広域的な連携の推進

つくる

- 5 学校教育・生涯学習との連携
 - ・郷土愛の醸成、人材育成
 - ・体験学習の充実
 - ・学習機会の充実と新たな活用の検討

◆措置の例

つなぐ

- 1 歴史文化資源の継続的な調査・研究
 - ・未指定文化財の指定・登録の推進
 - ・歴史文化資源の把握調査
- 2 歴史文化資源の保存・活用・継承
 - ・デジタルアーカイブの製作
 - ・デジタルアーカイブの活用



拓く

- 3 歴史文化資源の価値の共有
 - ・市文化財ホームページの作成
 - ・SNSを活用した情報発信
 - ・博物館特別展の開催
 - ・日本遺産に関する取組
- 4 多様な主体が関わる推進体制の構築
 - ・郷土芸能保存団体への支援
 - ・日本遺産活用推進協議会の運営



つくる

- 5 学校教育・生涯学習との連携
 - ・出前講座の実施
 - ・郷土に関する学習への協力
 - ・歴史文化に関する教育普及活動



那須塩原市文化財保存活用地域計画【概要版】

令和4(2022)年12月認定

編集・発行：那須塩原市教育委員会事務局生涯学習課
〒329-2792 栃木県那須塩原市あたご町2-3



令和4年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

那須塩原市文化財保存活用地域計画とは



作成の背景と目的

那須塩原市には、国指定重要文化財である「那須疏水旧取水施設」をはじめとする建造物や華族の別邸、北関東有数の縄文遺跡、江戸時代に関東と奥州を結んでいた街道と今も残る一里塚等、170件を超える国・県・市指定等文化財、200件を超える未指定文化財やその他の歴史文化資源が存在します。平成30年(2018)には、明治期の華族農場を中心とする那須野が原開拓の歴史や文化財が、「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」として日本遺産に認定されました。

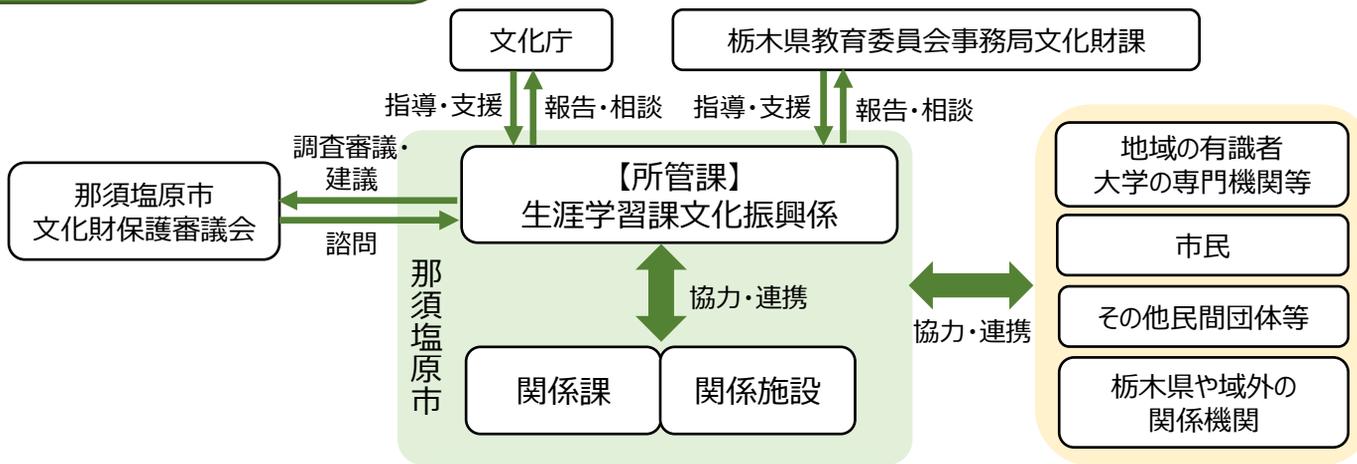
しかしながら、近年は人口減少や少子高齢化など地域社会を取り巻く状況が変化する中で、文化財を保存・継承していくことが困難になりつつあり、喪失の危機に瀕しているものも少なくないという課題を抱えています。そこで、本市は文化財を将来にわたり保存するとともに、その活用によるまちづくりを進めていくため、令和元年度に策定した「那須塩原市歴史文化基本構想」を踏襲し、平成30年(2018)に改正された文化財保護法のもと、文化財の保存・活用に関するマスタープランとアクションプランの両方の役割を担う「那須塩原市文化財保存活用地域計画」を作成しました。

文化財の多面的な価値や魅力を明らかにし、地域のみんで文化財の価値を共有することにより、地域への愛着を醸成し、市民一人ひとりが自然や文化財を通じて、那須塩原市を誇れる姿を目指します。

計画期間

令和5年(2023)度から令和9年(2027)度までの5年間

推進体制



歴史文化資源の定義

指定・未指定に関わらず市内に存在する地域特有の文化財で、市民共通の財産として価値あるものを「歴史文化資源」と定義します。

歴史文化資源には、地域特有の方言や地名のような地域の人々の生活の中で大切にされてきたものなど、文化財保護法で定められている6類型（有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群）及び埋蔵文化財、文化財の保存技術に収まらないものも含まれます。



歴史文化の特徴

1. 大扇状地と海の記憶

那須塩原市の南東部が属する那須野が原は、日本最大級の扇状地です。ほぼ中央に蛇尾川と熊川が流れていますが、扇頂部から伏流しているため、普段は水無川となっています。また、かつて海底にあり、陸になってからも湖があったことから塩原動物群や塩原湖成層といった地質学上貴重な自然的資源も観察できます。

2. 大扇状地に刻まれた歴史の歩み

那須扇状地が生み出した湧水地近くには縄文時代の遺跡が存在しています。鎌倉時代には那須野が原一帯で源頼朝による大規模な巻狩が行われました。江戸時代には各藩・幕府領が入り乱れ、戊辰戦争では旧幕府軍と新政府軍の間で激しい戦いがありました。こうした歴史を物語る歴史文化資源が市内各所に残ります。

3. 関東と東北を結ぶ道

栃木県北部地区は、古来より関東と奥州を結ぶ重要な交通の拠点でした。江戸時代には奥州道中や原街道が那須野が原を横断し、会津藩の主要な道として会津中街道が開削されました。明治時代に塩原新道が開削されると、開拓地は一気に交通の要衝として変貌を遂げます。明治45年(1912)には塩原軌道が開通しました。

4. 明治の大農場群と那須疏水

那須塩原市の大部分は那須扇状地の扇頂部と扇中部に位置し、水利の乏しい土地で、原野が明治初頭まで残されていました。明治に入り、原野を開拓するための大規模農場が次々と生まれます。特に華族農場の存在は、国道や鉄道、那須疏水開削など多大な影響を及ぼし、那須疏水の通水は開拓地を潤しました。

5. 那須扇状地の農村のくらし

黒磯・狩野地区では葉煙草栽培が、西那須野地区では養蚕が盛んに行われました。また、古くから馬産地として知られていました。冬季独特の強風から家屋を守るための防風林を備えた家が並ぶ列状集落は、特徴的な景観です。自然風土の厳しさを、季節の節目を生かした年中行事や祭礼、芸能などで乗り越えてきました。

6. 塩原・板室・三斗小屋の温泉群と山岳信仰

塩原・板室・三斗小屋の温泉群と山岳信仰の歴史があります。塩原温泉は名士や文化人が多く訪れ、独特の文化的発展を遂げました。板室温泉は「下野の薬湯」と呼ばれ、現在も湯治の里として親しまれています。白湯山信仰、黒滝山信仰、嶽山信仰として山岳部に見られる修験道の影響は、今も名残をとどめています。

那須塩原市の指定及び登録文化財の件数（令和4年9月現在）

区分（種別）		国			県	市	合計	
		指定	選択	登録	指定	指定		
有形文化財	建造物	2	-	6	2	27	37	
	美術工芸品	絵画	0	-	0	1	16	17
		彫刻	0	-	0	0	9	9
		工芸品	0	-	0	0	0	0
		書跡・典籍	0	-	0	0	0	0
		古文書	0	-	0	0	8	8
		考古資料	1	-	0	0	2	3
歴史資料	0	-	0	1	18	19		
無形文化財		0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形民俗文化財	0	0	0	0	5	5	
	無形民俗文化財	0	(1)	0	3	12	15(16)	
記念物	遺跡（史跡）	0	-	0	1	37	38	
	名勝地（名勝）	0	-	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	1	-	0	1	25	27	
文化的景観		-	0	-	0	0	0	
伝統的建造物群		-	0	-	-	0	0	
合計		4	(1)	6	9	159	178(179)	
		10(11)						

※国選択無形民俗文化財1件は市指定無形民俗文化財を兼ねる。



地域の多種多様な歴史文化資源を、歴史文化に基づく関連性、テーマ、ストーリーによって一定のまとまりとして捉えたものです。複数の文化財を総合的・一体的に保存・活用することにより、その魅力を高めるとともに、本市の歴史文化や文化財の価値を分かりやすく市民に伝えることを目的としています。

1. 那須の大地と連山～大扇状地と海の記憶～

今から1,500万年前、那須塩原市は一部を除き、海底にありました。やがて海底が隆起し陸地になり、火山の活動などにより大きく姿を変えていきます。そして、河川が谷を刻み土砂を堆積させて、広大な扇状地が形成されました。市内に見られる豊かな自然風土はこうした大地の変遷によりもたらされたものです。



2. 歴史が示す那須塩原～縄文から戦まで～

縄文中期の大規模集落である槻沢遺跡など数多くの遺跡があり、昔から人々が暮らしていた痕跡があります。鎌倉時代には那須野が原一帯で源頼朝による大規模な巻狩が行われました。江戸時代には各藩・幕府領が入り乱れ、戊辰戦争では戦いが繰り返されられた歴史があり、各時代を物語る文化財が市内各地に残されています。



3. 関東と東北を結ぶ道～街道と鉄道～

江戸時代には奥州道中や原街道が那須野が原を横断し、会津藩の主要な道として会津中街道が開削されました。明治に入り塩原新道が開削されると、開拓地は一気に交通の要衝として変貌を遂げます。明治45年(1912)には塩原軌道が開通しました。街道と鉄道の歴史は、那須塩原市の経済的発展にも深く関わっています。



4. 水の恵みを求めて～疏水と大農場～

那須塩原市の歴史は、開拓の歴史と言っても過言ではありません。水利の乏しい土地で、原野が明治初頭まで取り残されていました。明治時代に那須野が原が官有原野となり、大規模農場が次々と生まれます。特に華族農場の存在は、国道や鉄道、那須疏水開削など多大な影響を及ぼしました。華族の別荘は今も残る貴重な文化財です。



5. 産業と民俗～農村のくらしと文化～

葉煙草栽培や養蚕が盛んに行われていました。昔から馬の産地として知られており、馬のいたくらしが多く馬頭観音碑などに残されています。そして、自然風土の厳しさを、季節の節目を生かした年中行事や祭礼、芸能などで乗り越えてきた歴史もあり、民俗芸能も、歴史と文化に根付いた貴重なものです。



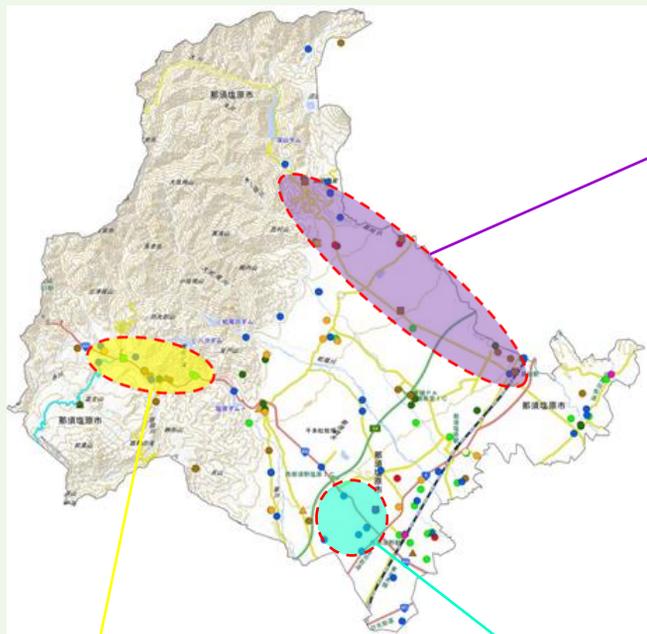
6. 温泉が生み出す文化～信仰・文学・芸術～

塩原・板室・三斗小屋の温泉群の歴史があります。1200年の歴史を有し、文豪も多く訪れた塩原温泉。古くから湯治の里として親しまれる板室温泉。標高1,500mの高地に位置する三斗小屋温泉。特に、三斗小屋温泉は白湯山信仰による湯宿としても賑わい、三斗小屋宿には、山岳信仰の石造物が現在も残っています。





歴史文化資源が特定の範囲に集積している場合に、当該文化財(群)をその周辺環境も含めて面的に保存・活用するために設定するものです。本市の歴史文化資源が特に集積していること、行政による施策が図られていること、地域住民による調査研究やボランティア活動が盛んなことを基準に、次の3つの区域を設定しました。



黒磯駅から板室温泉区域

黒磯駅周辺から板室温泉までの板室街道沿いには、日本遺産の構成文化財である旧青木家那須別邸や那須疏水旧取水施設があります。また、板室温泉にはかつての湯治場の雰囲気を残す多くの文化財があります。

【代表的な文化財】

- ・旧青木家那須別邸（国指・建）
- ・那須疏水旧取水施設（国指・建）
- ・百村の百堂念仏舞（国選・民）
- ・高木会館（国登・建）
- ・加登屋旅館本館・別館・悠仙閣（国登・建）



塩原温泉区域

塩原地区は古くから温泉地として栄え、明治時代には、華族や政治家、文人・名士が長期滞在したり、別荘を設けました。推定樹齢が1,500年とされる逆杉や材木岩などがあり、塩原平家獅子舞などの無形民俗文化財も伝承されています。

【代表的な文化財】

- ・逆杉（国指・天）
- ・旧塩原御用邸新御座所（県指・建）
- ・塩原平家獅子舞（県指・民）



博物館を中心とした三島区域

三島区域には、三島農場関連史跡や施設があります。また、本市の歴史文化の収集・調査・普及の拠点である那須野が原博物館には、土器や絵画、古文書、考古資料など多様な指定等文化財が収蔵されています。

【代表的な文化財】

- ・深鉢形土器<残月共>（国指・考）
- ・三島農場事務所跡（市・史）
- ・鑿道八景（市・絵）

